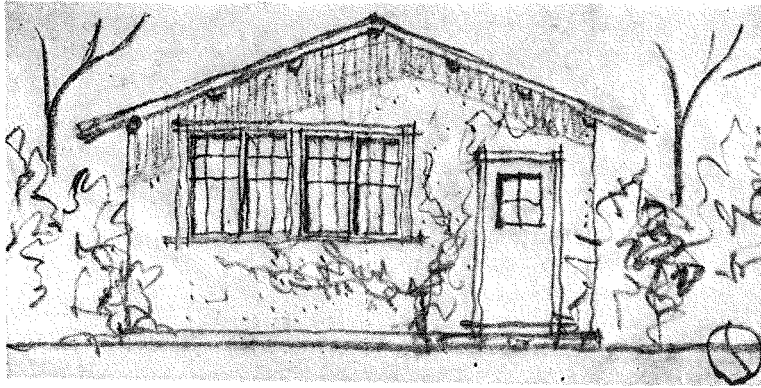


—竹の柱に  
茅の屋根—  
これを世人がいや  
しむなりはひの人  
たちの歌詞と思は  
れない。私はこの  
言葉がなつかしい  
—水を飲んで  
心尙樂し—  
とか支那の聖びと  
が云つたそうです  
が。私はこの人間  
味のない古賢の言  
葉より、—竹の  
柱—の俗歌の方  
をはるかにはるか  
になつかしむ。  
(能瀬久一郎)



静かに此の間取りを考へると、山間の工事現場に於ける小住宅として最もふさわしい圖案であります。手近に集められた材料で御手製に建て、見度いものです。荒木造りの荒屋でも自ら汗して造る程尊いものではありません。(記者)

Sketches of  
Japanese  
Cottages.

